

第 3 の話題：サービスの受け手が先導する次世代ヘルスケア

第 1 および第 2 の話題で取り上げた、食、薬、毒に関わる研究は、分子的には共通の経路網や標的分子を対象にしている。予防や予兆への対策、さらに（薬事法でいう）薬だけでなく、薬にあらざる介入（対処）法、すなわち Non Pharmacological Interventions, NPI を重視する次世代ヘルスケアにおいては、薬づくりと健康食品の研究、さらに運動や睡眠、その他の生活様式に関係した多様な介入法の分子的な機序を明らかにする研究が盛んになるであろう。そこで第 3 の話題として、次世代ヘルスケアのエッセンスである参加型ヘルスケアのイメージを探るために、先端的な論客である米国のトポル Eric Topol らの本や文献を紹介させていただくこととした。Topol が 2012 年に著した「The Creative Destruction of Medicine」の主張は、ICA が最も注目してきた医療革新の指針であった。実際、この本は米国議会（下院）の委員会が 2014 年 5 月から検討を始め、現在法制化が進んでいる、21st Century Cures 計画の最初の呼び掛け文書（White Paper）でも参考文献の一つになっている。その彼が 2015 年に著した「The Patient Will See You Now」は、生活者が先導する参加型ヘルスケアがすでに多くの局面で現実になっていることを提示している。彼は、体につけた計測機器 Wearable/Wireless Sensors やスマートフォンの普及が、参加型ヘルスケアを牽引すると予想している。また、ヘルスケアのサービスの提供者よりは、サービスの受け手こそイノベーションの担い手になるべきだと主張している、現在、米国で非常に影響力のある論客である。

残念ながらこれらの本は、まだ翻訳されていない。そこでこのセッションでは、トポルが提示している患者あるいは生活者が中心となった参加型ヘルスケアである、次世代ヘルスケアのイメージを探り、我が国の状況と合わせて、実現への道程を議論することを目的としている。そこでは、明日の薬づくりのヒントも得られることが期待される。なぜなら、これから開発される薬が実際に使われる 10 年から 15 年後の世界は、間違いなく次世代ヘルスケアの環境になるからだ。この意味で、この話題も、薬づくりを含め、いわゆるヘルスケアビジネスに関心のある幅広い関係者や生活者の参加を期待している。

参考資料

- Eric Topol, The Patient Will See You Now, Basic Books, 2015.
- Eric Topol, The Creative Destruction of Medicine, Basic Books, 2012.
- Larry Smarr, Quantifying your body: A how-to guide from a systems biology perspective, Biotechnology, Journal, 7, 980-991, 2012.
<http://wiki.epfl.ch/edicpublic/documents/Candidacy%20exam/quantifying%20your%20body.pdf>
- E. Topol, S. R. Steinhubl, A. Torkamani, Digital Medical Tools and Sensors, JAMA, 313(4): 353-354, 2015.